

Explanation of Plate 16

1. *Synuchus (Pristodactyla) angusticeps* sp. nov., ♀.
2. *Harpalus* (s. s.) *torridoides* Reitter, ♂.
3. *Stenolophus (Egadroma) karasawai* sp. nov., ♂.
4. *S.* (s. s.) *kurosai* sp. nov., ♂.

抄 録

Ando, Hiroshi (安藤 裕). The comparative embryology of Odonata with special reference to a relic dragonfly *Epiophlebia superstes* Selys. vi+205, 72 pls., 1962. 日本学術振興会刊, 丸善発売, 1,200円.

わが国における昆虫発生学の業績は寥々たるもので, 昆虫学教科書にもほとんど全部外国種についての発生過程が引用・記述されている現状である.

蜻蛉目の正常発生については Brandt, Heymons, Jschuproff, Butt などの業績があるが, いずれも断片的で, 材料も少数の種に限られていて, 従つて蜻蛉目は昆虫綱のなかで, 発生学的に最も未開拓の分野の一つとして残されてあつた.

本書はムカシトンボを中心とし, これに邦産の他の 2 亜目 9 科 29 種のトンボの胚子発生過程を比較した結果を詳細にのべたものであつて, 内容は卵形成・卵の構造; 受精より胚帯の分化までの初期発生; 胚帯形成より孵化までの中; 後期発生; 器官形成; 総括的論義; 結論から成る.

二, 三内容にふれると, 胚子発生の過程中はじめて科の区別とも称すべきものが認められるのは胚帯が形成された時であつて, オニヤンマ科がトンボ科に近い胚帯を有し, これら 2 科の近縁性を示していると考えられる.

器官形成の項では脳の形成; アラタ体, 前胸腺などの外胚葉性の陥入より分化する器官; 中胚葉性器官の形成などが詳細に述べられたが, 特に, 中腸形成については Jschuproff の報告以来種々の疑問が残されているので重点をおき, 結論に於て Jschuproff の結果を支持すると共に, 蜻蛉目の中腸形成が Symphyla, Pauropoda, Thysanura などに強い類似性を示すことから, 有翅類中の最も原始的な目の一つであると考えた. また, この目の内胚葉形成の特異性も指摘している.

この他, 下唇のマスクの相同, 胚子の腹部体節数の問題に関連し, 尾部付属器の起源体節なども論じている. これらの研究の結果から発生学的に見たムカシトンボの系統的位置は均翅亜目に近く, また, 均翅亜目に 2 つの系統を, 不均翅亜目には 3 つの系統をそれぞれ認めている.

著者安藤 裕博士は 現在東京教育大学菅平高原生物研究所の主任として勤務されているが, この発生学の労作には昭和 25 年以来の長年月を費されたときく. この大著を御紹介する日の到つたことをよろこぶと共に同君の労に深く敬意を表したい. (朝比奈正二郎)